第１４回　栃事研セミナー　レポート

８月９日（火）に栃木県教育会館にて、第１４回栃事研セミナーを開催しました。今回は、「学校評価から考える学校経営参画」をテーマに、講師に豊橋市教育委員会教育部教育政策課　事務指導主事 風岡治 氏を迎え研修を行いました。学校評価の現状と課題を理解し、学校評価の本来あるべきねらいを確認するとともに、評価結果を基に学校経営に参画する事務職員の役割などについて学びました。

受講者は、事前課題として自校の昨年度の重点化構想や学校課題、学校評価を読み込んだ上で研修に臨みました。

午前中の講義では、まず学校評価が取り入れられた背景や現状についての説明がありました。研究調査から「学校評価の実施率は高いものの、それが学校経営上十分に機能しているとは言いがたい」という問題が見えてきました。そこで、よりよい学校評価にするためとして、何が必要でどのように取り組んでいくか考える足がかりとして、実効性を高める取組をしている全国の教育委員会の事例の紹介がありました。「コミュニテイ・スクールを活用した学校関係者評価を行う」「学校マニフェストを作成・活用して学校評価の充実を図る」といった取組事例が紹介され、学校内だけでなく、家庭・地域などの学校関係者との課題共有や改善点の検討を取り入れた評価も必要であることがわかりました。

さらに、学校評価と事務職員の関わりから学校づくりに求められる事務職員の役割へと話が進みました。学校評価から事務部経営案の現状を振り返り、事務職員の立ち位置は何処なのかを考えました。豊富なネットワーク資源や教育に対する客観的な視点といった事務職員の強みを生かし、教員の仕事（教育・授業）や地域・保護者との連携・協働をしていくことが必要であり、教育活動との関わりの中で、「どのような実践をすべきか、そして具体的な実践の中身をいかに価値のあるものに高めていくか」が重要であるとのお話がありました。そして、教育と経営の視点をもち学校経営に関わっていくこと、さらには、意志決定に関わっていくことなど、事務職員の領域を拡げていく必要性について力強く話して下さい

ました。

午後の講義では、ケースメソッドを活用したグループ演習が行われ、架空の学校の評価委員会の中で学校評価結果を検証するという場面をロールプレイ形式で再現しました。司会役の進行のもと、学校経営計画、学校評価報告書を読み解いた上で、グループのメンバーそれぞれが校長・教頭・事務長・教務主任・ＰＴＡ会長の役を担いロールプレイをしながら、読み取った課題をどのように解決したらよいか、話し合いました。「校長先生はきっとこういう考えで経営計画を作っているはずだ。」「ＰＴＡ会長として教頭先生にこんな質問をぶつけてみよう。」と、役になりきり行う話し合いはとても新鮮でした。各々がそれぞれの立場や役を演じることを通して、事務職員の立場では見えにくかった視点や価値観に気づくことができました。

ロールプレイで感じたことをふまえ、改めて事務職員の立場に戻り、もう一度「学校評価において事務職員の役割は一体何か」について経験年数でわけられたグループで話し合いをしました。「事務職員として出来ること、事務職員だからこそできること、学校の職員としてできること、地域の人間としてできること」など様々な意見を出し合い模造紙にまとめました。発表では、財務・情報・評価分析・コミュニケーション・地域連携等たくさんの意見が出されました。この演習から、学校評価から、事務職員が教職員や地域の方や教育関係者と、子どもの学びづくりにできることや、関わっていける可能性がたくさんあることに気づくことができました。

この研修をとおして、学校評価や学校経営について、一層理解を深めることができました。また、ロールプレイの中で別の立場に立つことで、より一層“事務職員として”の役割について新しい視点から考えることができました。受講者からは「事務職員としての関わり方を学べた。」「チームとして、評価の立案の段階から関わっていきたい。」といった感想がありました。事後課題として今年度の学校評価を分析し、課題や成果をあげた上で、次年度に向けた学校としての改善策を見つけ、さらに事務部として何ができるかを考えていただくことになっています。今回研修を受けて学んだことや事後課題をとおして、それぞれの学校の教育目標達成のために、事務職員一人ひとりが学校経営に積極的に参画する意識がさらに高まることを願っています。